

寄稿

福島第一原子力発電所事故による放射性物質汚染の実態 —2019年、福島県二本松市の汚染の現状と黒い土—

千葉 茂樹*

【要約】 2011年3月11日に東北地方太平洋沖地震が発生し、直後に福島第一原子力発電所事故が発生した。3月15日、本論の二本松市を含む福島県中通りは、放射性物質に汚染された。2019年、著者は二本松市市街地南部の空間線量率を調査した。調査地域は、1972年の国道4号バイパスの開通、1992年の二本松市役所の移転と周辺の宅地造成などで、里山が開発された地域である。調査地域の中心部は丘陵地で、小山が南南西—北北東に分布する。この丘陵の中に二本松市役所がある。調査は、地上1mの空間線量率で、期間は2019年5～9月の延べ25日、測定器は日立TCS-171である。結果は、測定地点数は5921、全域の空間線量率は0.06～2.56 $\mu\text{Sv/h}$ 、平均は0.28 $\mu\text{Sv/h}$ であった。この中で、0.10 $\mu\text{Sv/h}$ 以上0.40 $\mu\text{Sv/h}$ 未満の地点が4832地点と全体の約82%を占めた。また、1 $\mu\text{Sv/h}$ 以上の地点が22地点であった。さらに、廃業したパチンコ店のアスファルト駐車場に「黒い土」と呼ばれる高放射線土を確認した。高放射線土の空間線量率(高さ1m)は2.26 $\mu\text{Sv/h}$ であった。

キーワード：福島第一原子力発電所、放射性物質汚染、空間線量率、二本松市、高放射線土



2020年8月24日受付 2020年9月11日受理

* Corresponding author: E-mail: s.chiba@vesta.ocn.ne.jp

福島自然環境研究室(〒969-3141 福島県耶麻郡猪苗代町大字磐里字村東4-3)

